

「賜物を生かす教会」 主任牧師 中島 聡

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。」

ペトロの手紙Ⅰ 四・一〇

「聖書のメッセージ、聖書が私たちに伝えようとしていることはなんでしょうか？」答えは「神は私たちを祝福してください。」です。「信仰とはなにか？」の答えも同じです。「神は私たちを祝福してください」と信じる」が答えです。では、祝福とはなんでしょうか。祝福とは、①私たちの罪を赦してください。②私たちに永遠の命を与えてください。③この世のなによっても得られないとびつかりの特典ですが、さらにもう一つ。④賜物を授けてくださる、です。

マタイによる福音書二五章の「タラントン（賜物）のたとえ」に記されていますが、神は私たち一人一人に賜物を授けて二つのメッセ

ージを伝えます。一つは、「生まれてきて意味の無い命などただの一つも無い」です。もう一つは、「人は無為に生きるのではなく、授けられた賜物を生かして生きていく使命があることを教えています。（日本では、「タラント」はテレビやラジオ、映画や舞台で活躍する芸能人を指しますが、元々はギリシャ語の重量や貨幣の単位から転じて、人の技量や才能を表す言葉であって、聖書では「神から授けられた賜物」を意味しています。）

さて、一人一人に個性があるように、一人一人の才能、賜物にも個人差があります。「タラントンのたとえ」では、一タラントンの人が、五タラントン、二タラントンの人を羨んでか、自分の一タラントンと見比べて「こんなちっぽけな才能じゃ、どうしようもない」と悲観してか、せつかくの一タラントンを土に埋めてしまい、結局、すべてを失ってしまうことが記されています。上述の通り、「必ず一人一人の命には意味がある」というメッセージを大切に受けとめたと思います。そしてもう一つのメッセージ、「五タラントンの人はもう五タラントンもうけた」、「二タラントンの人はもう二タラントンもうけた」とあるように、「賜物を生かす」ということを考えたいと思います。

清水ヶ丘教会は、二〇二〇年度から「第二次・福音宣教五ヶ年計画」をスタートさせるにあたり、

まず私たち一人一人に授けられている賜物について、もう一度、しっかりと向き合い明らかにさせていたきたいと願います。ともすれば、せつかくの賜物を意識することや埋もれさせてしまったり、漫然とした教会生活になってはいませんか。「ご主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。」と言えるように祈って参りたいと願います。

それはこの教会に与えられた賜物についても同様であると思います。神様は清水ヶ丘教会に、境内地、会堂、幼稚園、牧師館、教育館、ミッシオンホール、墓苑等々、数え切れない賜物を授けてくださいました。私たちはこれらの「恵みの善い管理者」でなければなりません。善い管理者とは、ただ管理するだけではなく、賜物を生かして互いに仕え合って、恵みを増し加えていく者のことです。

変化していく社会情勢にあって、教会も新たな視点をもって取り組みを為していく必要がありますが、一方でこれまでにあつた素晴らしい取り組みを大切にしていくな必要もあります。今年度、地区消息・地区活動の再活性化を掲げていますが、兄弟姉妹が賜物を生かし、祈りを合わせるところに恵みが広がっていくように願っています。まずは教会員一人一人の賜物が十二分に発揮され、そして、せつかく与えられた境内地、会堂、諸施設について、いかにすれば生かされていくことになるのか、祈り

に祈って善い答えを見出して参りたいと願います。

そのためにも「互いに仕える」ことです。そして巻頭言の聖句は「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい」(ペトロの手紙Ⅰ 四・八)から始まります。主の祝福、罪の赦し、永遠の命をこの世に宣べ伝えるために、互いに仕え、愛し合い、一人一人の賜物を生かして参りましょう。ハレルヤ！



### 「授業参観の話」

片平 貴宣

皆さんご存じだと思いますが、僕は関東学院小学校五・六年生の聖書科の授業を担当しています。毎週火曜日の午前中、五・六年生それぞれ二クラス、四時限分の授業を受け持っています。成績をつけない授業ではありますが、他の科目と同様、聖書科の授業も、授業参観があります。

きつと皆さんも授業参観された経験、参観した経験があると思います。聖書の授業が授業参観、とはなんだか不思議な感じもしますが、授業参観ですとやはり、子どもたちの様子が普段とは違います。いつもはなかなか席に着かなかつたり、おしゃべりをしていたりと言うこともありますけれども、授業参観ともなれば張り切って授業に臨みます。ほほえましくもあり、逆にこちが緊張するぐらいです。やはりそのような、親が見ているから張り切る子どもの様子からは、学ばされるところもあると感じます。

親が来るから、見ているから、と言うだけで子どもたちは普段とは少し変わります。授業参観は親御さんが来て何か特別なことをするわけでもありません。教室の後ろに立って見ているだけです。しかし、背中に親の視線を感じるだけで、あるいは、まだ

教室に来ていなくとも、今日はお父さんかお母さんが来る、と思うだけで子どもは変わるのです。そしてそれは、嫌々やっているのでありません。そうすることが喜びだからです。「お父さん・お母さんに自分の姿を見てもらいたい、普段は見せられない学校での姿・授業での姿を見てほしい」、そう思えばこそ、子どもたちは張り切って授業に臨みます。

私たちはどうでしょうか？大人になりますと、誰かが見ているからがんばる、張り切る、ということとはあまりなくなるかもしれません。それは決して悪いことではないと思います。自分のペースで物事を行う、誰が見ていようがいまいが、やるべき事をするのは、成長のなせる技でしょう。

でも実は、天の父なる神さまは私たちを見ておられる、と聖書にあります。「神は人の歩む道に目を注ぎ／その一歩一歩を見ておられる。」(ヨブ記三四・二一)と記されます。私たちは天の父なる神さまに連なる神の子であり、隠れたところに至るまで、はたまた心の奥底に至るまで神さまはご覧になっています。言ってみれば、私たちは毎日が授業参観なのです。今、この時です。

動画はこちら

[https://youtu.be/E1CV9\\_Z8UG8](https://youtu.be/E1CV9_Z8UG8)



父なる神さまが見てくださっているから、と言っても私たちはあまりそのことを意識しないし、あえて張り切ろうとも思わないかも知れません。反対に、「神さま、今はちよっと目をつぶっていてください」なんて時すらあるかもしれません。でも、子どもの姿に習いたいと思います。親の視線を感じて張り切る子どもたちの姿の如く、天の父なる神さまが私たちをご覧になっておられることを覚えて、そのまなざしを喜んで歩みたいと願います。

### 10地区の報告です。

◆岡野公夫兄自宅療養中。兄の大作人形劇の第1号(40年前)に当たる「三国志」関連番組が放送されます。

①NHK BSプレミアム 8月3日  
土曜日21時～22時59分

②NHK総合 歴史秘話ヒストリア  
8月28日水曜日22時30分～23時20分

◆新教会員歓迎会、今回は、池ご夫妻。ホナージュさんのお店で、16人出席。祝されました！！